

『平太』と『今市』の渡し

『豊里大橋』は昔、『平太の渡し』と『今市の渡し』だった。

鉄橋架設～新技術の開発

近世明治の文明開化により木造石造に代わる鉄橋架設が始まり、鉄道とともに陸上交通の要である橋には、大正期コンクリート橋が出現する。

昭和初期には、意匠デザインの優れた多くの架橋がなされた。第二次大戦後の復興期、大阪の橋は補修・復旧と高潮対策に力を注がれた。昭和30～40年代の自動車社会に対応するため、また大阪万国博覧会開催に向けての都市計画により堀川は埋められ、道路建設が進み、橋の長大化が必要となった。

新技術の高張力鋼が開発され、豊里大橋は大阪初の斜張橋となり、市内の長大橋建設の始まりとなった。こうして橋は、淀川に新たな美しい景観をもたらした。

橋梁技術者の夢を可能にし、50年代以降、設計施工技術と景観面からもわが国の橋梁技術向上に大きく貢献した。そして、旭区と東淀川区を300年間結び活躍していた「渡し」は役目を終えた。



写真■豊里大橋

南大道村の土豪「沢田佐平太」

「平太(田)の渡し」は、江戸期延宝4年(1676)頃に開かれた。大坂町奉行から認可を受けて、手広く渡船業をしていた南大道村の土豪、沢田佐平太(※)の名からついたとも言われている。

また、当時の渡しは西成郡豊里村大字天王寺荘字平田と東成郡古市村大字今市を結んでいたため、この地名からも考えられてもいる。

ちなみに、27代安閑天皇(531～535年)の頃、この辺りは放牧の適地として牛が飼われていた(乳牛牧跡-ちちうしのまきあと)。聖徳太子も度々訪れ、この地を四天王寺建立の候補地と考えられたが洪水が多いため、現在の位置に建てられた故事があり、大正14年(1925)大阪市に編入されるまで西成郡天王寺庄とされたのは、この説からとも言われている。

(※) 沢田佐平太：収益を農民たちの年貢として納め

ていた。出身は奥州東北の武士で、沢田家は文治年間(1185～1190)にこの地に移り、慶長年間の大坂の役で家康に味方した功績に対する恩賞として渡船16カ所の特権を得た内の一つである。堂島川、木津川等の渡船権利も得、中島一帯を開墾し、菩提寺である大沢寺も建立した。



写真■豊里大橋と平太の渡し

写真提供：(財)大阪市都市工学情報センター

豊里の名も聖徳太子の別称「豊聡耳皇子」から名づけられたとの説もある。この地は丹波地方や大和地方への交通の要地で、淀川上下の川船改めの「平田番所の渡し」(江戸期元禄14年(1701)発行『摂陽群談』に記述)とも呼ばれ、淀川両岸は渡船で結ばれていた。

江戸期文久元年(1861)に発行された『淀川兩岸一覽』(松川半山画、暁晴翁著)「上り船之部上巻」によると『今市渡口』(いまいちのわたし)森小路村の上にある。東生郡今市村より、西成郡平田村への舟わたし也。今市渡場の一村なり。毛馬より此処まで、水上凡(およそ)十一丁半余。

摂河之国境今市村、土居村の間にあり。「下り船之部下巻」によると『平太渡口』(へいだのわたし)摂州西成郡平太村より、同東生(ひがしなり)郡今市村

へ淀川をわたす舟渡しなり。今市のわたしとも云う。平太より大坂へ、行程凡二里・・・の記述がある。

明治30年(1897)から淀川大改修工事により流れが変わったが、その以前は旧市電の走っていた国道付近を川幅も今の四分の一ほどで流れていた。

しかし、新淀川の開削工事により豊里村が分断され、古市村が陸地へ押し上げられたため、明治37年(1904)以降は豊里村内の飛び地を結ぶ村営渡船場(請負制)として存続し、明治40年(1907)から府営となる。渡船代金は大人2銭(現代換算で100円くらいと思われる)、子ども1銭、牛馬4銭で1日の利用客は100人程という記録がある。

【参考：当時アンパン2銭、市電1区4銭】

南は「平太」、北は「平田」。
どちらも『渡し』の碑



写真■淀川堤防南側(左岸)にある平太の渡し跡の碑



写真■淀川堤防北側(右岸)にある平田の渡し跡の碑

淀川筋には古くから多数の渡し場があり、本流では宇治・山崎・橋本・出口・鳥飼など、下流の大川筋にも長柄・源八・桜・川崎などがあつた。

平太(田)の渡しは、大正8年(1919)施行の道路法以来「東淀川区386号」という認定道路であったため無料となり、大正14年(1925)市域拡張で大阪市営、昭和23年(1948)4月に請負制から直営になる。

周辺部の市街化で利用者が急増し、片道20分で手漕ぎ舟20人乗りのため、朝夕多くの積み残しが出たり、強風雨の時には欠航もした。

昭和35年(1960)10月に21人乗り発動機船、昭和38年(1963)12月に36人乗りとなり、最盛期には一日約3千人の乗客と670台の自転車を運び、人々に喜ばれた。淀川筋の最後の渡しとして維持されたが、

昭和45年(1970)3月に豊里大橋の開通により「渡し」は姿を消した。

昭和49年(1974)淀川100年事業記念として作られた碑の文字は、公募で選ばれた人の作品。その名を惜しみ袖高欄に記念の銘板が取り付けられている。



写真■

豊里大橋の袖高欄に取り付けられた記念の銘板